

2026年度 学校推薦型選抜試験 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
12	5

※ 一般、スポーツの総計

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力（リーガル・マインド）を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

- ① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
- ② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
- ③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

3. 出題の意図

今回の小論文の出題は、志願者が本学科のアドミッション・ポリシーの①から③すべてにあてはまる人物かどうかを判断することに、そのねらいがあります。

この出題内容では、まず、志願者が現在のわが国の社会的課題について、広く関心をもっているかが問われます。その際には「キーワード」および「資料」を理解して活用することが求められます。また、国際社会との関係への言及が論述内容の厚みを増すポイントとなるため、その知識があるかどうか問われることになります。

その上で、出題のテーマに関する多様な意見を整理・検討することができるか、そして、それらの意見を論理的に説明することを通じて、その問題を柔軟かつ論理的に考え、自身の見解を自らの言葉で的確に表現し、展開する能力があるかが問われます。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

オーストラリアの法制定は、あくまでも外国の事例としての紹介ですので、必ずしもその規制内容にとらわれる必要はありません。日本として取るべき対応（規制の是非、規制内容など）を柔軟に論ずることが求められます。

2026年度 学校推薦型選抜試験 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	5

※ 一般、スポーツの総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

今年度の小論文試験は、アドミッション・ポリシー（以下、「AP」という。）のうち、「2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。」に関する力を測るために出題しました。このことは、既に公表されているルーブリックにある通りです。したがって、問題文中にある、「自然災害がもたらす危機や危険に対して、行政はどのような取り組みを行うべきであろうか。」という部分について、AP2. に沿った形で解答して欲しい、というのが出題の意図となります。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

「出題の意図」は上記の通りですので、「評価のポイント」は、①自然災害がもたらす危機や危険に対する、行政のこれまでの取り組みにおける「課題」を適切に指摘できているか、②これまで学んできた知識をもとに論理的に考え、自らが示した「課題」に対する「解決策」を適切に示せているか、の2点となります。

最後に「アドバイス」ですが、現在の入試制度においては、AP やルーブリックに基づいて評価が行われ合否が決せられます。そのため、AP とルーブリックの理解度はあなたの合否に直結します。これらを暗記するくらい何度も読み返し、記憶にしっかりと定着させたいので、試験に臨むようにしてください。

2026年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
28	10

※ 一般、スポーツの総計

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

本小論文は、受験者が経済学科において学ぶ上で必要と考えられる以下の資質や力をどの程度有しているのかについて確かめることを狙いとしている。

- ① 与えられた文章と図表を読みとり、正確に理解することができるか（アドミッション・ポリシー、以下 AP の 1、5 に関連）
- ② 普段から身のまわりの経済現象に関心を払い、地域の経済的課題を認識しているか（AP の 1、2、3、5 に関連）
- ③ その課題についての解決策を自分なりに考え、提示することができるか（AP の 1、2、3、4 に関連）
- ④ 問題の意図を正しく把握し、他人に伝わる明瞭な文章で論理的に表現することができるか（AP の 3、5 に関連）。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

2025年の沖縄の観光客数は、これまでの最高値であった2019年の1016万人余りを上回り過去最高となる見込みである(2025年12月現在)。これだけの来訪者がいるという沖

縄経済の強みをどのように生かすのかについて考えてもらうべく、今回の小論文のテーマを設定した。「関係人口」について事前に知識を有していた方は決して多くなかったかもしれない。しかし、与えられた文章と図表を正確に理解する力と、沖縄県における人口問題や離島地域の経済振興などについて見聞きしたり考えたりした経験があれば、それほど難しい問題ではなかったはずである。

日ごろから、授業における学習のみにとどまらず、新聞・ニュース等に関心を払い、また読書・周囲との会話等を通して、地域社会の課題に気づく姿勢を養ってほしい。また、地域の課題を自らの積極的なかわりによって解決したいという意欲と、そのための知識を獲得したいという積極性を養ってほしいと願っている。

2026年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 地域環境政策学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
14	12

※一般、スポーツの総計

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の1～4について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

この小論文課題は、志願者が地域の環境課題に対する関心と理解力、そして課題解決への意欲と論理的思考力をどの程度持っているかを評価することを目的としています。

(1) 地域課題への関心と理解

志願者が自らの住む地域(都道府県)における水環境問題に関心を持ち、具体的な事例を挙げて説明できるかを確認します。例えば、沖縄県の水に関係する環境問題には、開発現場、米軍基地、農地などからの赤土等流出による河川や海洋汚染、PFAS(有機フッ素化合物)による飲料水源の汚染、農薬や化学肥料による地下水汚染などが含まれ、地域によって異なる課題が存在します。

(2) 論理的思考と課題解決力

各問題に対して、原因や背景を論理的に分析し、現実的かつ持続可能な解決策を提案できるかを見ます。解決策には、法律や条例による水汚染防止のルール作り、農地からの赤土等流出を防ぐための支援、PFASの汚染源と見られている米軍基地内への立入調査を阻んでいる日米地位協定の改定、地下水汚染を防ぐための化学肥料から有機肥料への転換、水環境問題に関する環境教育など、行政(沖縄県、県内市町村、日本政府、米国政府)、企業、地域住民など、多様な視点からのアプローチが求められま

す。

(3) 地域環境政策学科との関連性

本学科では、地域と環境を経済の視点から捉え、持続可能な社会の構築を目指す人財を育成しています。志願者が、地域の現場に根ざした課題を発見し、主体的に取り組む姿勢を持っているのかを判断するための設問です。

これらの視点から、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に志願者が合致しているのかを判断します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価ポイントは、次のとおりです。①地域の水環境問題を具体的かつ的確に把握していますか。②問題の原因・影響・関係者の視点を踏まえた論理的な説明ができていますか。③解決策が現実的で、持続可能性や地域性を考慮していますか。④小論文全体の構成力、文章力、そして、問題解決に向けての意欲がありますか。

なお、以下の場合には、減点となります。①問題の説明が抽象的で、地域性が不明確な場合。②解決策が表面的で、実現可能性や持続可能性に欠ける場合。③文字数不足、誤字脱字、小論文の構成の乱れ。

特に、沖縄県におけるPFASによる飲料水源の汚染問題については、新聞などのメディアで取り上げられることも多いです。他の環境問題と同様に新聞やテレビニュースなどからの情報について、意識的に関心を持つことが重要です。また、志願者自身がフィールド(現場)にあった解決方法を導き出すためには、世界や地域に強い関心を持つことが重要です。

2026年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 企業システム学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
26	5

※ 一般、スポーツの総計

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の5項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

本設問は、沖縄県における起業の実態——すなわち「開業率が高いが廃業率も高い」というデータを素材とし、起業後の事業継続性や地域との関係性について、商学・経営学的な視点から考察させることを目的としています。単なる「起業の夢」や「努力（やる気・根性）論」にとどまることなく、顧客ニーズの理解、収益構造の設計、地域資源の活用といったビジネスに必要な基礎的視点をもとに、課題へ具体的にアプローチできるかを問う内容です。

また、自らの体験や観察に基づく事例を通じて、思考のリアリティや説得力を発揮できるかどうかにも重視しています。すなわち、本学科で商学・経営学・会計学を学ぶうえで不可欠な「論理的思考力」「問題発見・解決力」「社会との接点への感受性」を測ることをねらいとして、本設問を出題しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2026年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(一般)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
16	4

2. 産業情報学科 アドミSSION・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。

また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

- 1.情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
- 2.産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
- 3.大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」に興味・関心があり、自ら進んで深く学ぼうと努める学生を求めています。

沖縄本島北部に自然体験型テーマパーク「ジャングリア」が開業する。地元の週末レジャーではなく旅行者をターゲットとするジャングリア。旅行者が求める「興奮、ぜいたく、開放感」から、これまでの沖縄観光とジャングリアを比較し、沖縄経済の可能性について関心の高さを問う内容となっています。

設問への解答を通じ、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を育てる意欲があるか、観察したいと考えています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2026年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(スポーツ)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」などの実学分野に幅広く興味・関心をもち、それらを深く学ぶための基礎知識や学力を身につけた人、科学的・論理的に課題を捉えて解決しようとする人、そして大学生活で自ら進んで学びを深め、他者と協働しながらコミュニケーション力を高められる人を求めています。

このような人物像を踏まえ、今回の試験では、高校生活でのスポーツ経験を基に、近年注目されている生成 AI をスポーツの現場でどのように活用できるか、そのメリットと課題について検討してもらいました。また、選手・指導者・ファンといった立場の違いや、地域社会やビジネスの場との関わりにも目を向けながら、新たな価値やサービスの可能性についても検討してもらいました。

生成 AI という先端的な情報技術を、試合映像の分析やトレーニング支援、観戦ガイド、広報活動 (SNS 等) などの具体的な場面と結びつけて考察できているかで、情報技術への興味・理解度を評価しました。また、その活用が地域や企業の活性化、スポーツ文化の発展にどのようにつながるかを想像できているかで、ビジネス的視点や社会的な視野を評価しました。さらに、利点だけでなく課題や注意点にも触れながら、自分の経験をもとに筋道を立てて意見を述べているかどうかによって、論理的思考力と表現力、創造力を総合的に評価しました。

2026年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
8	8

※ 一般、スポーツの総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球沖縄文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球沖縄文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力を身につけている人

総合型選抜では、上記の3項目に加えて、基本的な学習習慣をもち、当学科の専門領域の学びを通して社会貢献を目指す志願者を求めます。

3. 出題の意図

日本文化学科では、言語学・文学を中心とした、日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションという3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は、「物語と日本人の心」に関する書籍から出題しました。【問一】は要約問題、【問二】は論述問題となっています。いずれも、アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を身につけているかどうかを評価するための問題となっています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

【問一】の要約問題については、①「要約」がどのようなものを理解しているか、②課題文の要点を押さえているか、③②を整理する際の論理の流れが適切であるかどうか、④既定の文字数に達しているか、という4点を評価しています。

【問二】の論述問題については、①筆者の考えについて「自身の意見」と「論拠」、「まとめ」の構成を意識して述べているか、②本文の内容に関わらせて物語作品を取り上げ、意見に説得力を持たせているか、③適切な語彙を用いて表現しているか、④既定の文字数に達しているか、という4点で評価しています。

2026年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(一般)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
8	8

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科では、英語の長文を読解しその内容を日本語で要約するという問題を毎年出題しています。出題されるテーマは英語圏の言語文化に関するものから異文化コミュニケーションに関するものまで、幅広く取り上げられています。この問題を通して、英文を正確に読み取るための「英語力」、要点を論理的にまとめていくための「思考力」、読み取った内容を的確に伝えるための「表現力」を評価しています。

今回取り上げたエッセイはイギリス人特有の雨天との関わり方について述べたものです。イギリスにおける変わりやすい天候がそこに住む人々の生活に大きな影響を与えていることが興味深く描かれています。この英文の要約を通して、各段落のトピックとその具体例との関係性がきちんと把握されているか、英文全体の論旨が押さえられているか、決められた文字数を守ったうえで的確な日本語で表現できているか、といった点を評価しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2026年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(スポーツ)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
3	3

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

出題した英文は、家庭用ロボットについて述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2026年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 社会文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
6	6

※ 一般、スポーツの総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物

3. 出題の意図

今回の小論文課題の意図は、社会文化学科のアドミッション・ポリシーのうち、特に1～3で挙げた諸要素の有無を判断することを目的としています。本学科は、沖縄の歴史・文化・社会を総合的に学ぶという特色をもっていますが、同時にその学びを沖縄内だけにとどめるのではなく、広く世界の動向や諸問題とのかかわりの中で沖縄を考える重要性についても打ち出しています。こうした背景のもと、今回の小論文課題は、沖縄の歴史・文化・社会にどれほどの関心を持っているか、それをより広い世界とのつながりの中で考えることができるか、また、それを考えるための基礎的な学力を備えているかを確認するため、出題しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2026年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
4	4

※ 一般、スポーツの総計

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- I. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分あると認められる人物。
- II. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- III. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの試験評価の指標「3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、「4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か」及び、「5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か」を確認することを意図した出題となっています。

特に、受験生が今日社会問題となっている「闇バイト」「若者の生きづらさ」等についてどの程度関心を持ち、社会福祉の視点を意識しながら自らの意見を整理して論述することができるかを評価します。

以上の具体的な課題設題を通して、同ポリシー「I.将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物」、「II.社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物」を確認することを意図しています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

(1) 評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の3点が評価のポイントとなっています。

- ① 日頃から社会問題、特に社会福祉の対象となる立場の弱い方々(今回は若者)の抱える諸問題に関心をもっているか。
- ② 「闇バイト」に応募せざるを得ない状況を把握・理解できているか、その社会的背景を分析できるか。
- ③ 上記を踏まえて、ソーシャルワーカーとして何ができるのか、一市民として・社会全体として何をしなければいけないのか等、自分事として「若者のいきづらさ」を捉える視点が求められる。

(2) アドバイス

あらゆる小論文問題にいえることですが、日頃から、身近な出来事やニュースに対して関心を持ち、それに関連する文献や新聞記事等を読んだり、自分の経験を意識的に振り返ったりしながら考えるという作業を習慣にしましょう。同時に、振り返ったこと、考えたことを自分の言葉で身近な人に説明したり、意見を交換したり、文章化するなどの作業を積極的に行うとよいでしょう。

これらの作業を習慣化しておくと、日頃から自分自身の意見を身につけ、それを言語化することにつながり、様々な設題にある程度対応できるかと思います。

2026年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
13	11

※ 一般、スポーツの総計

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの中でも特に1.にあるように、心理学という学問が人間の「こころと行動」や「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶものであるということについてどの程度理解を深められているかを評価することです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

<評価のポイント>

- ・心理学には科学的視点に基づいた多くの分野があることを知っているかどうか。
- ・また各分野が具体的に何を対象とした学問であるのかを知っているかどうか。
- ・自分が知っていることを論理的な文章で書き表せているか。

<アドバイス>

- ・心理学には様々な分野があることを調べてみてください。
- ・信頼性のある情報源から調べるようにしましょう。
- ・調べて知ったことを自分の言葉で書く練習をしておきましょう。